



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

12月8日は何の日？

真珠湾の攻撃に始まった太平洋戦争開戦の日ですね
 でも仏教徒にとってはもっと重要な意味がある日なのです
 釈尊成道の日、つまりお釈迦さまが仏となられた日なのです
 仏になられたお釈迦さまが世界の平和と人々の真の幸せを願って
 教えを説き弘める第一歩を踏み出された日です

【12月の主な行事】

- ★写経会 11日(日) 11時
- ★清掃の日 15日(木) 11時
- ★月例祈願法要 15日(木) 13時
- ★鷗様月例祭 22日(木) 15時
- 星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

【1月の行事予定】

- ☆正月歳始祈禱 1日～15日
- ※歳始祈禱申込受付中です
- お問合せは寺務所窓口へ
- ※新年の開運シールを授与

- ★書き初め写経会 8日(日) 11時
- ★清掃の日 15日(日) 11時
- ★月例祈願法要 15日(日) 13時

妙見様のご縁日祈願法要 開運殿にて厳修

- ★鷗様月例祭 22日(日) 15時 火伏せ守り札授与

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

- 諸行事は社会情勢により変更する場合があります
- ◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい
- 出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中
- 登山カード押印は休止
- 送迎車の運行は休止

◆ケープル&リフトは12月4日まで運行
 但し正月三ヶ日は当山信徒専用シャトルバスあり

(但し水曜日・木曜日は運休) 詳細は能勢電鉄へ
 お問い合わせ下さい。 TEL 07279927716

今日という日

箕浦 溪介

「ああ、時間がない。何を書こうか。」十一月の半ば頃、私はパソコンの前で頭を悩ませていた。というのも本原稿の締め切りが間近に迫っていたからです。それなのに一切書けていない。「気の毒に、年末の忙しい時に」と思っただけで下さる方がおられるかもしれませんが、この件に関しては完全に自分が悪い。なぜなら書くのが決まっていたのは十か月も前のことなのですから。少しづつでも考えていればもう書き終わっていたはずです。それなのに、まだ時間がある、まだ大丈夫、今日は気分が乗らない、とただなら先延ばしにして全く手を付けなかったのですから。やっと書き始めたのが締め切り二日前。こんなことならさっさと済ませておけばよかつたと思いまし

たが後悔先に立たず。思い返せばいつも同じような失敗の繰り返しです。全く学習していません。

そんな中、真如寺の朝のミーティング中、隣の部屋から「ポーっと生きてんじゃねーよ！」とチコちゃんの声。(NHKの番組「チコちゃんに叱られる!」が流れていたようです。)

私にはそれが、懲りずに同じ失敗を繰り返す自分が叱られているよう聞こえてなりませんでした。

私たちの毎日の生き方についてお釈迦様が次のような教えを残されています。――過ぎ去れるを追うことなかれ。いまだ来たらざるを念うことなかれ。過去それはすでに捨てられたり。未来それはいまだ到らざるなり。ただ今日まさに作すべきことを熱心に作せ――

お釈迦様は「今日という日を大切にせよ。一日一日

を大切に生きていきなさい」と説き私たちを戒めて下さっています。

なんとなく迎えた今日という日。それが実はありがたい一日であることを自覚し、その日にするべきことを丁寧に確実にこなすこと。時間を無駄にすることなく。それがチコちゃんに叱られないポーっとしていかない生き方、一日一日を大切に生きるということなのではないでしょうか。

釈尊の成道

成道とは成仏得道といい、仏の悟りを完成することをいいます。釈尊は、誰しも逃れることのできない生・老・病・死という四つの大きな苦を脱し悟りに到達することを願い出家し、苦行生活を送りました。しかし苦行では悟りを得られないことが判った釈尊は、伽耶城の近くの菩提樹の下に端座思惟し12月8日の未明ついに大悟されたのです。

《法華経に学ぶ現代》

～純智庵～

減度を以て

子を思う

親の気持ちは変わらねど

身体は 年々弱くなる

得度すべき

そこで親父は考えた

儂が病氣になったなら

息子も少しは気づこうと

者には

布団に入って言ったとき

いつまでもあると思うな

減度を示現す

親と金

『妙音菩薩品第二十四』

ないと思うな運と天罰

仏教まめ辞典

降伏

降伏という語は読み方によってまったく異なる意味になります。一般的な「こうふく」と読めば外の敵に降参することになります。

仏教読みで「こうぶく」と言えば、自分の内に潜む煩惱や悪心などを打ち負かす。あるいは修行の妨げとなる悪鬼邪神の類いを下し伏すことを言います。釈尊が菩提樹の下で悟りを得るため瞑想に入つたのを見た悪魔が、最後の誘惑を試みて攻めてきた時、釈尊はこれに気をとめることなく成道されたと言います。釈尊の降魔成道の瞬間です。

仏教の降伏は悪魔を徹底的に打ちのめすのではなく、その悪い性を取り除き、悪魔にも安楽を与えようとの慈悲心に基づくものなのです。降伏すべきは自身の心中に潜む魔です。対象を外に求めていては真の平和は実現しないというのが、仏の教えなのです。